

# 福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例(その3) -自社技術を活用した新たなダイニングセットの開発-

石川 弘之\*1 西村 博之\*1 隈本 あゆみ\*1 青木 幹太\*2 辻 直幸\*3 渡部 浩行\*4

## The Project with which it's Supported to Improve the Furniture Branding The Example Product Development by The Project with which its Supported to Advance The Product Planning capability Part3

-The Product Development of New Diningset which its Utilized In-house technology-  
Hiroyuki Ishikawa, Hiroyuki Nishimura, Ayumi Kumamoto, Kanta Aoki, Naoyuki Tsuji and Hiroyuki Watabe

(株)辻製作所は、ダイニングチェアやダイニングテーブル等の脚物家具を主力製品としている。今後、国内の家具市場の縮小が予測される中、(株)辻製作所は既存の自社製品と比してワンランク上の価格帯の製品を新たに開発し、安定した収益を確保する事が必要と考えた。そこで、(株)辻製作所は外部からの意見を取り入れコンセプトを構築し、ターゲットを明確にした製品開発が期待できる「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、製品開発に取り組んだ。(株)辻製作所は、自社の製品や保有技術の分析等を行う事でコンセプトを構築し、ファニチャーデザインにデザインを担わせ「クラシック」、「エレガント」の両スタイルをウインザー様式(古い英国の家具様式)で表現したダイニングチェアとダイニングテーブル「GEORGE」を開発し製品化した。

### 1 はじめに

本報では、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」(以下、「本事業」という。)における(株)辻製作所(以下、「辻製作所」という。)の製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、前報「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例(その1)」を参照していただきたい。また、本事業に関わった製品開発グループおよびデザイン事業者のメンバーは表1の通りである。

### 2 事業の取り組み内容

#### 2-1 製品開発の目的

辻製作所は、主にシンプルな直線や柔らかな曲線をデザインの基調とする「北欧スタイル」や「和モダンスタイル」のダイニングチェアやダイニングテーブル(以下、「ダイニングセット」という。)等の脚物家具を主力製品として取り扱っている。ダイニングチェアは3万円前後、ダイニングテーブルは10万円前後の価格で、主に全国の大規模家具小売店にて販売している(図1)。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州産業大学 芸術学部 青木幹太教授</li> <li>・株式会社辻製作所</li> <li>・インテリア研究所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファニチャーデザイン</li> </ul>



図1 辻製作所の「北欧スタイル」、  
「和モダンスタイル」の主力製品

\*1 インテリア研究所  
\*2 九州産業大学 芸術学部  
\*3 (株)辻製作所  
\*4 ファニチャーデザイン

辻製作所は、今後縮小していくことが予測される国内の家庭用家具の市場<sup>1)</sup>の中で、今後も安定した収益

を確保するため、新たな製品を開発し、製品のラインアップを拡充させることが必要であると考えている。具体的には、数値制御によって木材を任意の形状に加工できる NC 加工技術や、熟練の技術を要するろくろ加工技術といった自社の木材加工技術を活かして、これまで自社製品がターゲットとしていた層とは異なる層に訴求できる、自社の既存製品よりもワンランク上の価格帯の新しい製品を開発することである。しかし、辻製作所はワンランク上の価格帯の製品を開発するには、どのような製品コンセプトを構築すれば良いか分からない状況であった。そこで、辻製作所は本事業に参加することで、外部の有識者からの意見を取り入れてコンセプトを構築し、ターゲットを明確にした製品開発を実現できると考え、新たなダイニングセットの開発に取り組んだ。

## 2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

製品開発グループは、自社の既存製品よりもワンランク上の価格帯という基本的な要件につながるコンセプトを構築することを念頭に置いて、製品コンセプトの構築に着手した。はじめに、製品開発グループでダイニングセットの開発につながる辻製作所の既存製品の特徴を確認し、整理する作業から始めた。製品開発グループは、自社製品の特徴を把握するため、「縦軸：軽快な-重厚な、横軸：クラシカル-モダン」等の独立した2軸の要素からなるポジショニングマップを複数作成し、辻製作所の製品の特徴を分析した。その結果、辻製作所の製品の基本的なデザインは、軽快かつ普遍的でシンプルなデザインが特徴であることが分かった。また、辻製作所の製品は「北欧スタイル」や「和モダンスタイル」を基本として、製品のデザインを少しだけ変化させながら製品ラインアップを増やしていく製品展開を行っている事も確認できた。本事業で開発するダイニングセットも、この様な製品展開の方法を踏襲したいという辻製作所の意向を踏まえ、現行商品群から少しだけデザインの方向性を変化させたスタイルを取り入れる事とした（図2）。

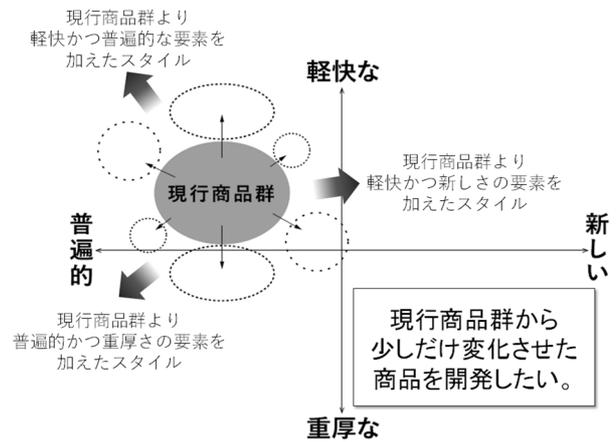


図2 自社製品の特徴とデザインの方向性を少し変化させたスタイルを示した図

続いて、開発する製品に取り入れるスタイルは、辻製作所より示された現在のトレンドとなっている「北欧」、「クラシック」、「エレガント」、「ロフト、ラステイック」、「インダストリアル、異素材ミックス」の5つスタイルの中から検討し選択する事とした。その結果、本事業で開発する製品のスタイルは、「北欧スタイル」や「和モダンスタイル」からは大きくデザインを変えずに、少し異なる方向性を打ち出せると考えた「クラシック」と「エレガント」の両方のスタイルを取り入れたものにする事にした。これらのスタイルを選択した理由は、各スタイルが持つ以下に示す特徴について、辻製作所の木材加工技術でも表現できる特徴であると考えたからである。

- ・クラシックスタイル：ウォルナット材等の重厚感のある濃色の無垢材を用い、曲線形状や昔ながらの装飾が施されている点が特徴
- ・エレガントスタイル：すっきりとした柔らかな曲線形状が主で直線的要素は控えめである点が特徴

また、ターゲットのメインとなる購買層は、30～40歳代を中心とした新築戸建て・新築マンション購入層や、60歳代以上のリフォームを行う層とし、その中でも高価格帯のダイニングセットを求める層とした。販路については、高価格帯の家具を取り扱うインテリアショップでの販売をメインの販路とし、加えて主要販路である全国の大規模家具小売店やインターネットでの販売も想定することとした。このようなインテリアショップでは、販売員が顧客に対して製品に使用される素材や製品の意匠等について、大規模家具小売店に比べて細かく丁寧に説明することで製品の魅力を伝

え、販売につなげるのが特徴である。そのため、開発するダイニングセットは、ウォルナット材等の高級な天然木の無垢材を使用して、木材の素材感が感じられる仕上げとする事や、部材毎に樹種を選択可能とする事で、製品の魅力を表現する事とした。

以上を踏まえて、製品開発グループで検討を重ね、製品コンセプトを構築した。構築したコンセプトを基に下記に示す内容のデザイン仕様書を作成し、これに基づきデザイン事業者を公募した。

〈デザイン仕様書の主な仕様〉

○ターゲットとする販路や購買層

- ・全国のインテリアショップや大規模家具小売店等での販売を想定
- ・30～40歳代を中心とした新築戸建て・新築マンション購入層や、60歳代以上のリフォームを行う層

○主な製品コンセプト

- ・「クラシックスタイル」, 「エレガントスタイル」を取り入れたデザインとすること
- ・無垢の木材の素材感が感じられるデザインとすること
- ・ウォルナット材, オーク材, メープル材, チェリー材といった高級な天然木の無垢材を使用し, 部材毎に樹種を選択可能とすること

公募の結果、複数のデザイン提案の中から、「クラシックスタイル」, 「エレガントスタイル」を、古い英国の家具の様式の一つであるウィンザー様式を取り入れることで表現したダイニングセットの提案内容（図3）や、熱海 MOA 美術館の能楽堂向けの観客席（図4）等のデザインの実績がある点が評価されたファニチャーデザイン（熊本市）を選定した。

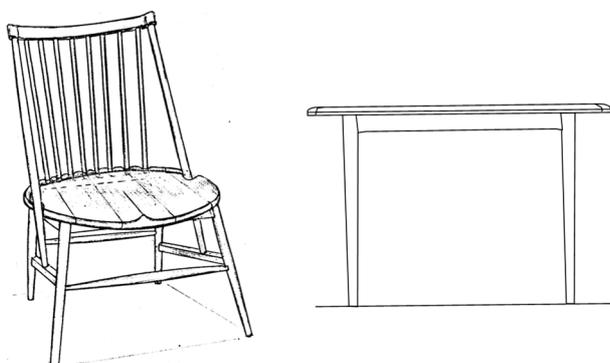


図3 ファニチャーデザイン提案のダイニングセット



図4 熱海 MOA 美術館能楽堂の観客席

### 2-3 デザイン事業者によるデザインと製品

製品開発グループとファニチャーデザインは、共にファニチャーデザインの提案内容に基づいてダイニングセットのデザイン全般について検討を重ね、デザインのブラッシュアップ作業を進めた。そして、辻製作所は、以下の特徴を持つダイニングセット「GEORGE（ジョージ）」（18～19世紀にかけての英国の家具様式のジョージアン様式を由来とする）を製品化した（写真1, 2）。

- ・ろくろ加工技術を用いて、ウィンザー様式の特徴である複数の細いスポーク形状の背柱や、中央から端部に向かって絞った意匠の脚部等によって、「クラシックスタイル」, 「エレガントスタイル」を表現した点
- ・NC加工技術を用いて、座面の側部や後部を凹凸の形状に加工し、凹部を複数の背柱が貫く組み立ての難易度が高い構造とした点
- ・ウォルナット材やオーク材等の高級な天然木の無垢材を用い、部材毎に樹種を選択できる点
- ・表面はオイル塗装として素材感を感ずることができるとした点
- ・ダイニングテーブルは、脚部の形状をダイニングチェアの脚部と同様の意匠とし、同一の樹種を採用することで一体感を持たせた点（写真3）



写真1 ダイニングセット「GEORGE」



写真2 ダイニングチェアの複雑な形状の  
座面と座面を貫く背柱



写真3 同じ意匠を採用した脚部

### 3. まとめ

辻製作所は、本事業に参加し製品開発グループの協力を得て、自社の木材加工技術や自社製品の特徴等を把握して製品コンセプトを構築し、ファニチャーデザ

インにデザインを担わせることで、ダイニングセット「GEORGE」を製品化した。辻製作所は、自社製品にこれまでなかった新しいスタイルを持つ「GEORGE」を開発したことで、辻製作所の既存製品より高い価格帯の製品を加えてラインアップを拡充させる事ができた。

開発後、首都圏で開催される家具展示会等へ出展し、ダイニングチェア10万円程度、ダイニングテーブル12万円程度の価格設定で、高価格帯のダイニングセットへの需要がある層に対して販売を予定している。また、辻製作所の既存製品よりも高い価格帯の家具を求める層にも「GEORGE」を通じて辻製作所の製品の魅力が認知されていくことで、辻製作所のブランド力が向上していくことを期待したい。

### 4 参考文献

- 1) 株式会社矢野経済研究所：矢野経済研究所ホームページ(オンライン)

[https://www.yano.co.jp/pressrelease/show/press\\_id/2260](https://www.yano.co.jp/pressrelease/show/press_id/2260)